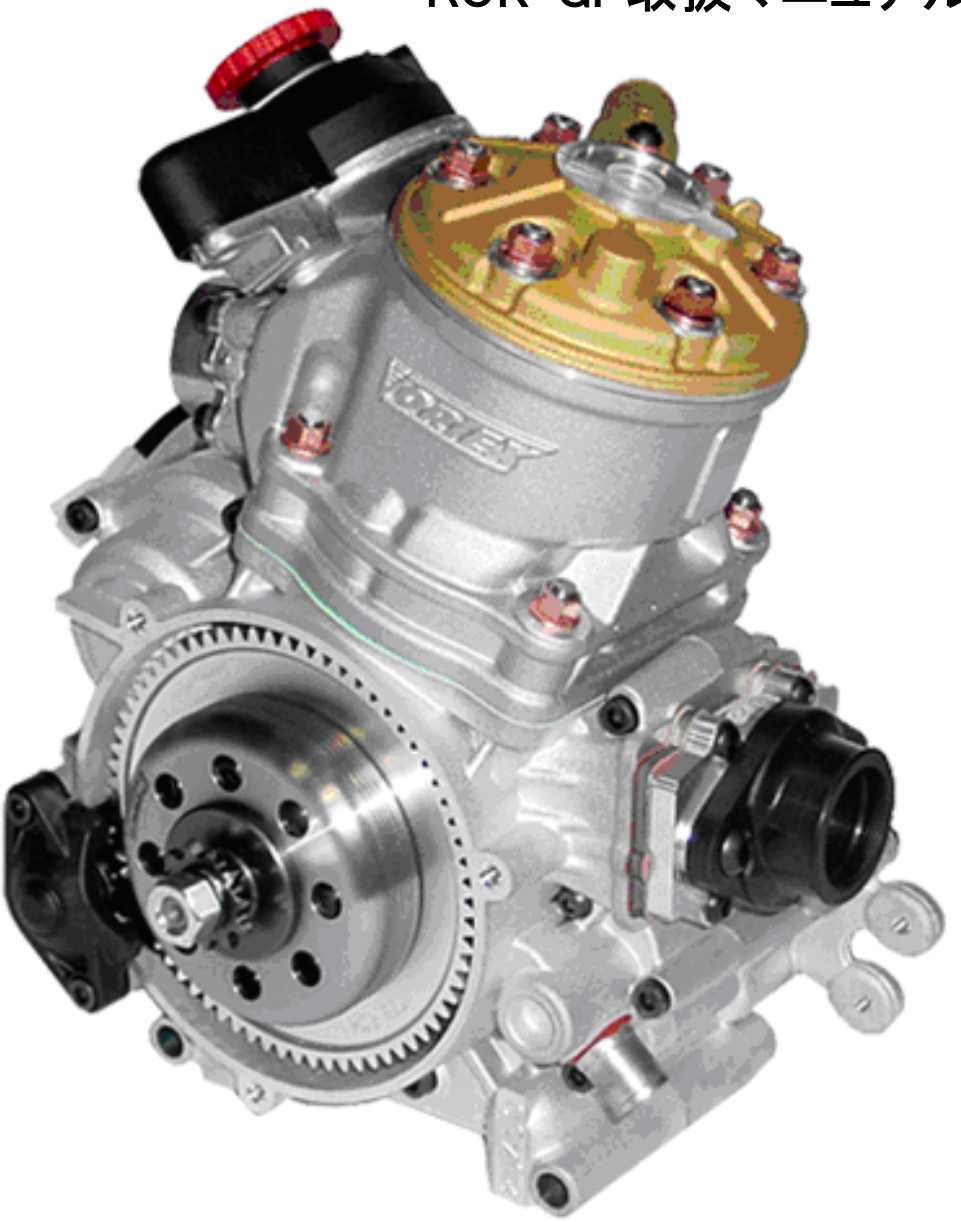
ROK-GP取扱マニュアル



オイル注入/チェック/排出

注意事項

新品時エンジンにはオイルは入っていません。

ギアオイルは走行2時間毎にオイルレベルのチェックを行い交換または補給してください。

オイル注入

オイル注入キャップ（1）を開け、オイルレベルゲージ（3）が一杯になるまでSAE 80W 90EPの高品質ギアボックスオイルを**90cc**ゆっくりと入れる。

オイル抜き

ギアオイルドレンスクリュー（4）を開ける。エアが中に入るようにオイル注入キャップ（1）も開ける。オイルを抜いた後ドレンスクリュー（4）を閉める

オイルベント（オーバーフロー）

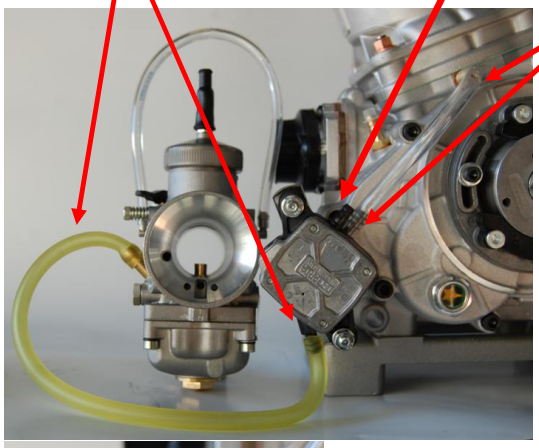
オイルベント（2）に適当なホースを取り付け、リカバリータンクに接続する

フューエルポンプの配管

＊キャブレターからフューエルポンプのOUTへ繋ぐ

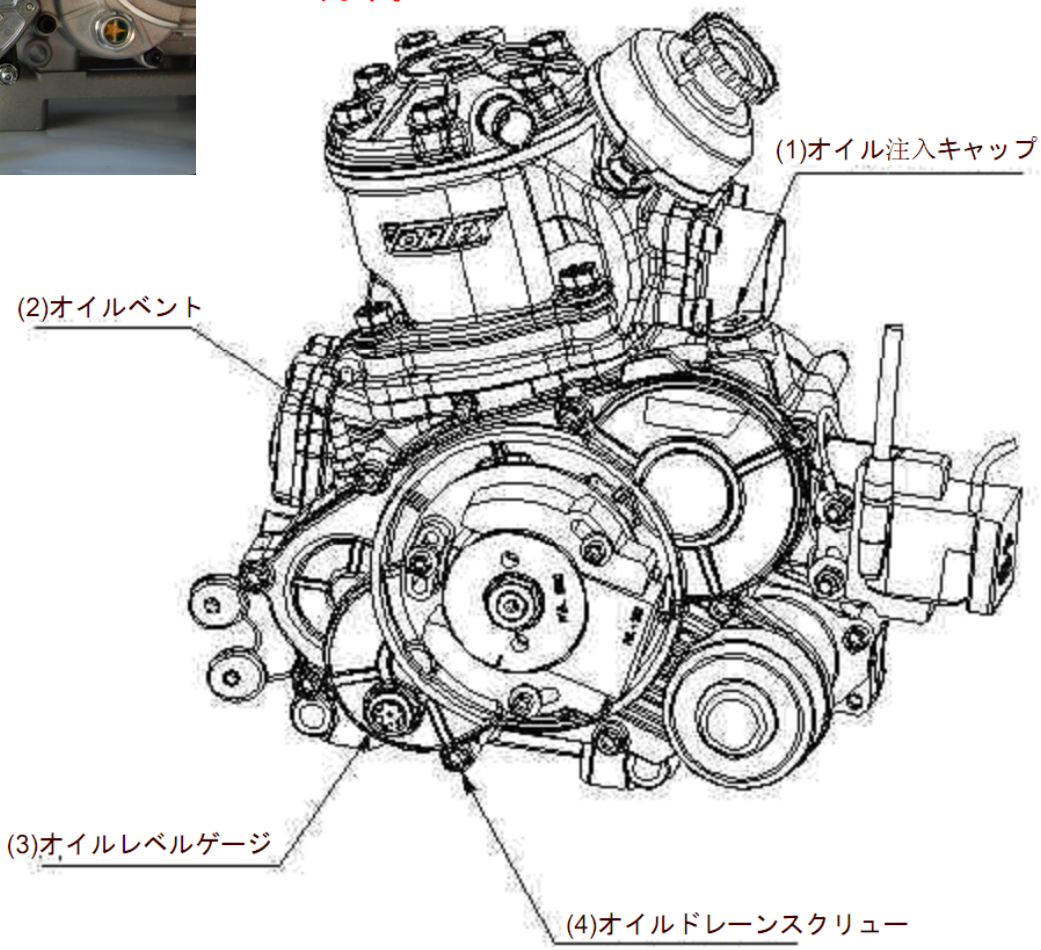
＊フューエルタンクからフューエルポンプのINへ繋ぐ

＊不圧ラインから不圧プラグへ繋ぐ



フューエルタンクとフューエルポンプの間にフューエルフィターを取り付けることを推奨します

注意：不圧ホースにオイルの固まりが入りエンジンが止まった時は、ポンプからホースを抜きオイルを取除いてください。オイルがポンプに溜まると正常にポンプが作動しなくなります。



冷却配管/注入と排出

注意事項

エンジンにはウォーターポンプが内蔵されています、冷却水を入れるたびに冷却ポンプ内にエアが混入する場合があり、これは冷却水循環に大きな妨げになります。冷却水を満たす毎に必ずエア抜きを実施して下さい。

配管

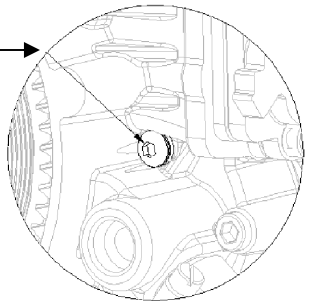
ホースをシリンダーヘッド出口（1）からラジエターの上につなぎラジエター下の出口からクランクケースの入口（2）へつなぐ。

冷却水注入とポンプ排出

1. ホースから中のエアを出しながらラジエターキャップを開け冷却水を入れる
2. ラジエターに冷却水が満たされてもまだキャップを閉めない

   重要

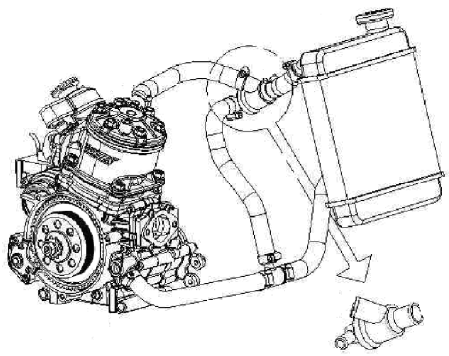
3. **クランクケースのウォーターポンプ排出口のスクリュー（3）を緩め水が出るまでエア抜きを行う（図参照）**
4. 排出口のスクリューを閉める
5. カートのラジエター側を持ち上げ車体を傾け再度エア抜きを行う
6. 最後にラジエターに減った分の冷却水を注ぎラジエターキャップを閉める

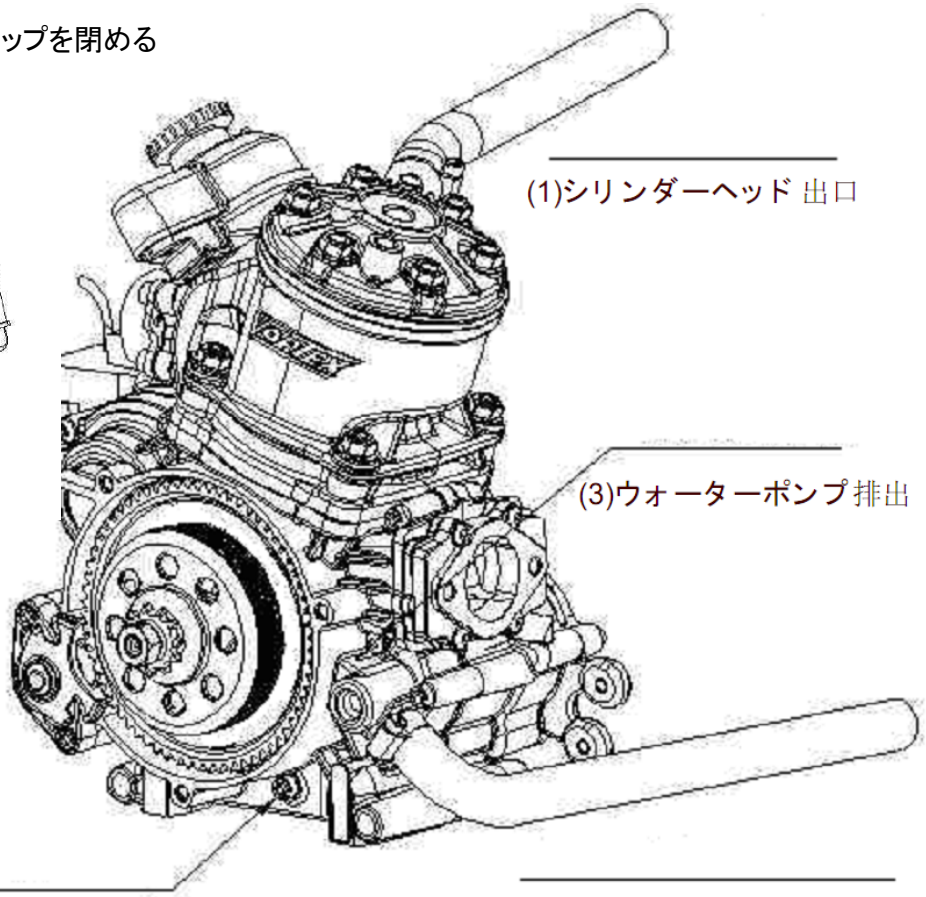


冷却水排出

1. ラジエターキャップを開ける
2. クランクケースのドレインスクリュー（排出）の（4）を開ける
3. 全ての冷却水がドレンスクリューへ向かうようにカートのラジエター側を持ち上げ傾ける
4. ドレンスクリューとラジエターキャップを閉める

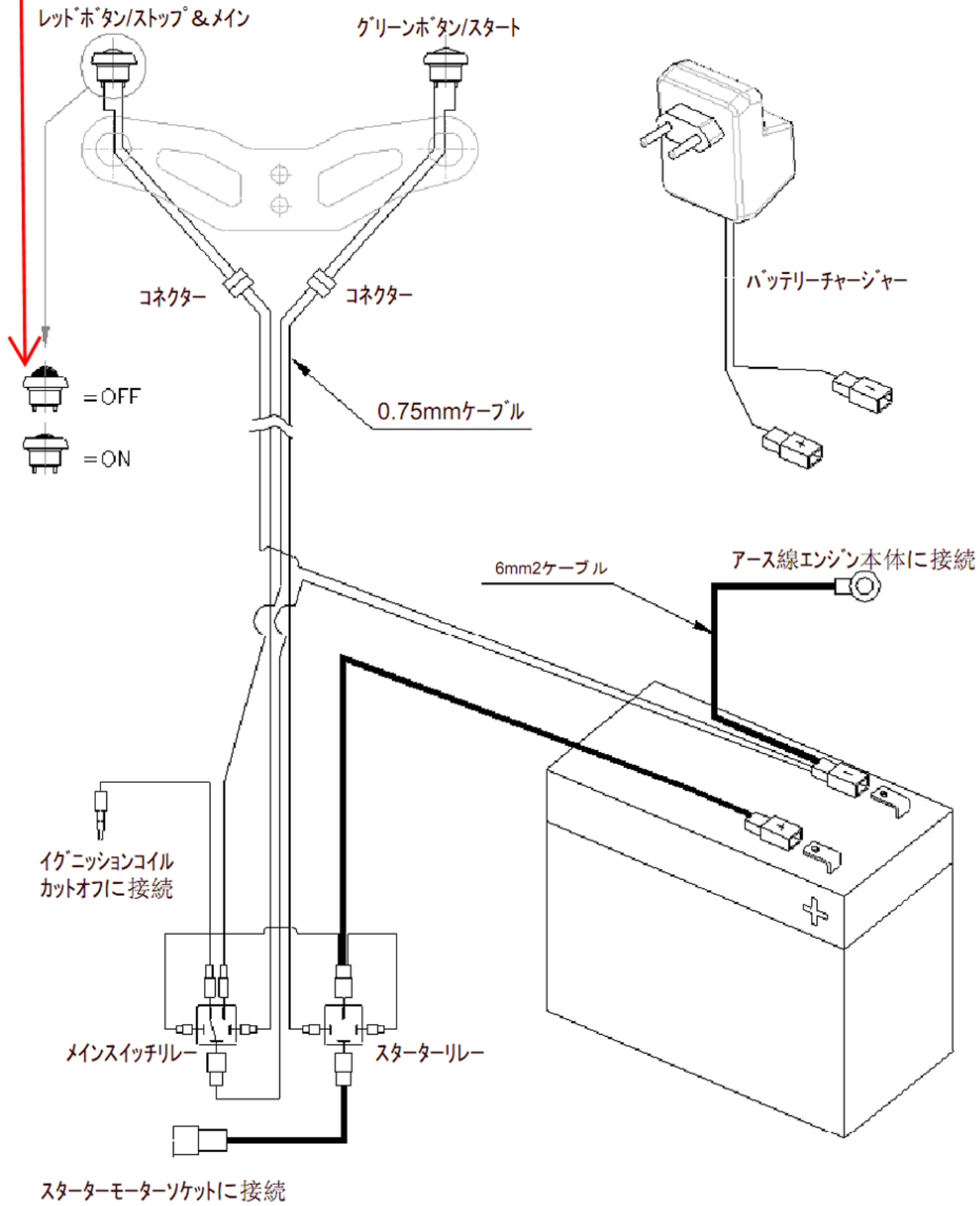
サーモスタッド取付図





ELECTRIC CABLE HARNESS

エンジンが始動してないときは、レッドボタンが必ず「OFF」になっている事を確認して下さい
「ON」になっている場合、バッテリー電力は消費されます。



ROK-GP エンジン装備品

電装品　　：スタータースイッチCOMP/スターターリレー/メインスイッチリレー/バッテリー
　　バッテリーホルダーCOMP/バッテリーチャージャー
エキゾースト　：マフラー/マフラースプリング
水冷品　　：ラジエター＆ステー/ラジエターホース/ホースバンド/サーモスタットKIT
フューエル品　：DELLORTOキャブレター/フューエルポンプKIT

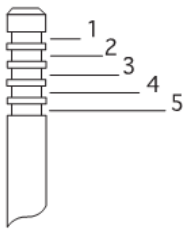
DELLORTO VHSH 30 標準セット

メインジェット：145
アイドルジェット：60
アイドルジェットインサート：CD1
スライドニードル：K33X08
スプレーノズル：DP268
スライド：40
インレットニードルバルブKIT：250
フロート：40g

標準セットは95オクタン以上無鉛混合ガソリン温度25℃、標高0～50メートルでセットされています。

エンジンを違った環境で使用、又は違った性格のガソリンを使用する時は適正な混合気を設定するためにもキャブレターを調整しなければなりません

メインジェットの変更はエンジンの幅広いレンジで混合気に影響を与えるため一番重要な要素となります



スライドニードル標準セットは2の位置です。クリップを1の位置にセットすると全開状態での混合気が少し薄くなります。クリップを4の位置にセットすると混合気が少し濃くなります。

重要

混合気を薄くするとエンジンオーバーヒート、ピストンの焼付き、コンロッドビックベアリング等、トラブルの原因となります。
混合気を濃くするとエンジンパフォーマンスの最高回転に届かなくなります。
冷却水が45℃に達する前にアクセルを全開にしないでください。

エンジンの慣らしについて

エンジンオイル混合比は3%（33：1）を目安にして下さい。

低速慣らし15分　スタートして7，500回転まアクセルを開ける、回転数に達したら5，000回転に下がるまでアクセルを閉じる、その後同じ事を繰り返しながらトップの回転が15分後に10，000回転なるように徐々に回転を上げていく。

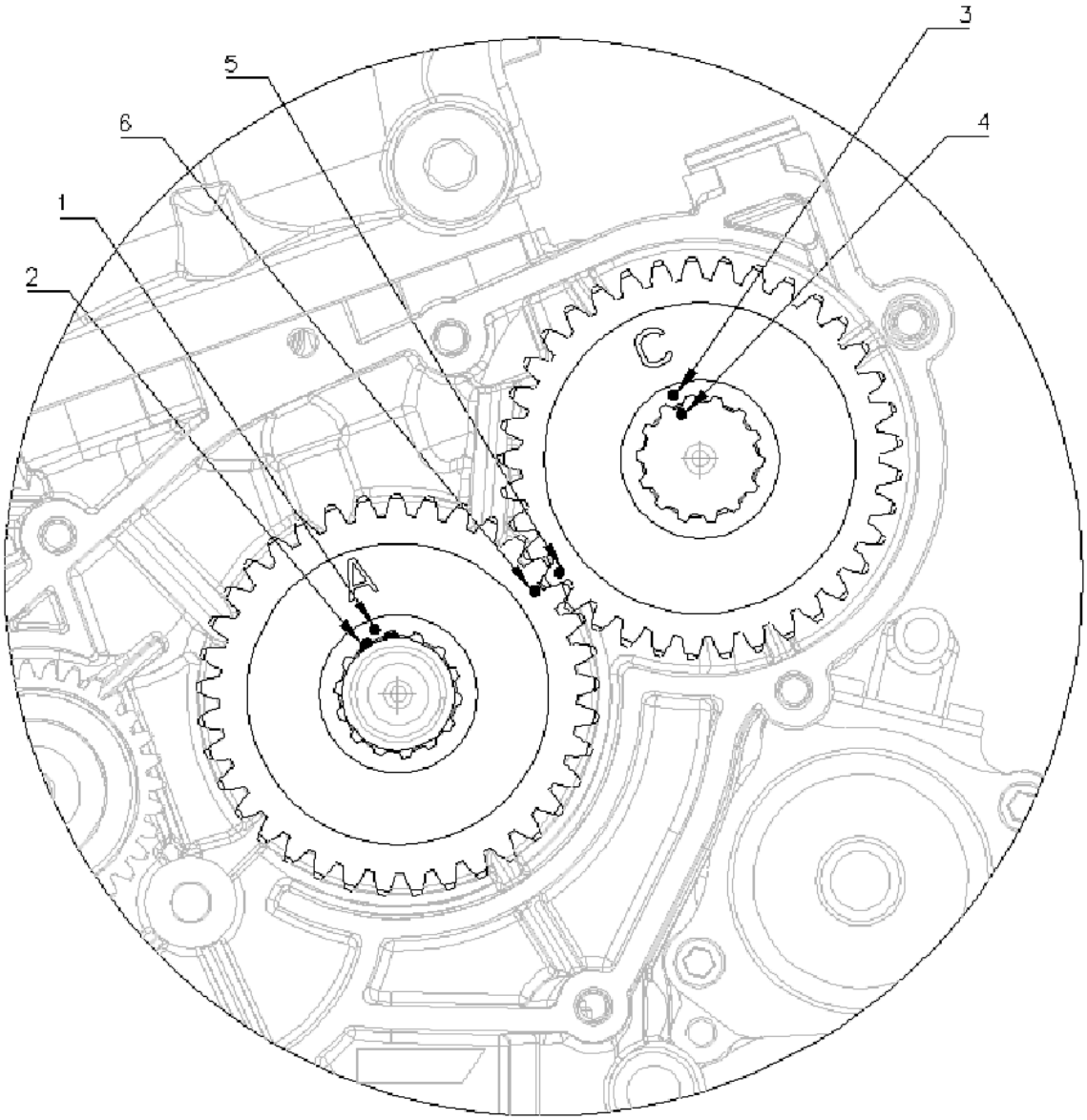
高速慣らし15分　スタートして10，000回転まアクセルを開ける、回転数に達したら5，000回転に下がるまでアクセルを閉じる、その後同じ事を繰り返しながらトップの回転が15分後に13，000回転になるように徐々に回転を上げていく。

注意：無負荷でエンジンを回さないで下さい。無負荷で回転を上げた場合、14，000回転を超えることになり各部品の寿命が劇的に短くなります。

＊マフラーは毎走行後、錆に対する注油を行って下さい。

バランスシャフト位置調整

エンジンには振動防止の為に位置調整されたバランスシャフトがエンジン回転とは反対に回転するようになっています

エンジンを分解する時はバランスシャフトの位置調整をするために以下の手順に従って下さい

1. ピストンをTDC（上死点）へ持っていく
2. “A”マークが見えるようにクランクシャフトギアを取り付ける、そして（2つのギアは全く同じですが、違いは横に組まれている事だけです）ギアマーク（1）がクランクシャフト（2）のマークがある歯の間になるようにする
3. ”C“マークが見えるようにバランスシャフトを取り付けギアのマーク（3）とシャフトのマーク（4）が一直線になるように取り付ける
4. 最後にマーク（5）と（6）が一直線になるように噛み合わせる